



大阪+知的障害+地域+おもろい=創造

## 知の知の知の知

社会福祉法人大阪手をつなぐ育成会 社会政策研究所情報誌通算 4361号 2018.5.6 発行

### 10年以上放置「休眠預金」が来秋にもNPOに活用...前例のない社会実験

産経新聞 2018年5月5日

お金の出し入れが10年以上ない「休眠預金」を民間の公益活動に活用するため、各銀行がシステム整備に乗り出した。投資額は大手銀行5グループだけで50億円程度とみられる。「前例のない社会実験」ともいわれる休眠預金の活用は、低金利の継続やITを駆使した金融サービス「フィンテック」の進展を背景に新規採用の抑制、店舗網の見直しといった構造改革を迫られる銀行にとって、重い負担となりそうだ。

休眠預金の活用は、銀行がまず、預金保険機構にお金を移すところから始まる。各行が着手したシステム開発は、この対応に必要な措置という。

お金はその後、首相が指定する指定活用団体で厳正に管理される。地域の公益活動事情に詳しい資金分配団体を経て、来秋には、若年層の支援や地域活性化に取り組む民間非営利団体（NPO）への助成・融資・出資が始まる。

政府が2月にまとめた基本方針案では、支援先として、児童養護施設に入所する子供の進学支援や障害者の雇用促進、過疎地の雪下ろし事業などに取り組む団体を想定。しかし「資金の使い道をあらかじめ政府が限定すべきではない」として、当初検討課題に上がった「子どもの貧困対策」など、基本方針に具体的な事業名を明記することは見送った。

休眠預金活用法は平成28年12月に成立、今年1月に施行されたことで、政府や銀行が具体的な対応に動き始めた。政府は来夏をめどに、休眠預金活用の基本計画をまとめる方針だ。

海外では、英国や韓国などが同様の休眠預金の活用制度を設けている。

金融庁の推計によると、休眠預金は毎年約1200億円発生し、このうち500億円程度が預金者に払い戻されている。民間の公益活動を支援する財源として財政難の国が目をつけたのが、残る約700億円の“眠れる資産”だ。実際には、ここからさらに支払い請求に備える分を除いた500億円程度が対象となる見通しという。

休眠預金にはたとえば、預金者が転居手続きをしないまま引越してしまい連絡が取れなくなるケースや、相続人に預金の存在を知らせないまま預金者が死亡するケースがある。銀行は10年以上取引が途絶えた預金口座のうち、残高が1万円未満の口座を自動的に休眠扱いとしている。残高が1万円以上ある場合は預金者に通知し、戻ってきた場合などに休眠扱いとしている。

商法では、最後の取引から5年が経過すると預金者は財産権を失うと定めている。銀行は休眠預金を利益として計上しているものの、時効後でも預金者から請求があれば、多くの銀行が元本に利息を上乗せして払い戻しているのが実態だ。

休眠預金口座の約9割は残高1万円未満、平均残高はわずか約6500円という政府の

### 休眠預金活用の流れ



調査もある。あるメガバンク関係者は「こうした小口の預金口座の維持・管理にも、銀行は多くの手間とコストをかけてきた」と打ち明ける。

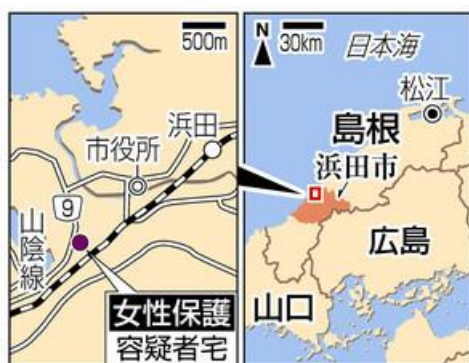
政府の基本方針案には、休眠預金の活用について「わが国では前例のない『社会実験』である」との文言が盛り込まれた。銀行は制度運用開始後も請求があれば預金者に払い戻しをするが、もとは一般国民の財産である休眠預金の活用には、これまでも「財産権の侵害」などと批判する声もあった。

休眠預金を有効活用できれば、恵まれない子供たちや障害者への支援が広がる可能性はあるが、配布先の選定や使い道には、厳しいルールが求められる。(経済本部 米沢文)

**休眠預金** 預金者と連絡が取れなくなったり、口座の存在を忘れていたりして10年以上お金の出し入れがない状態の預金。銀行や信用金庫などの金融機関で発生する休眠預金は毎年約1000億円とされる。農協や漁協などでも休眠状態の貯金が発生しており、休眠預金活用法の対象となる。

### 島根 不明の20歳女性保護 誘拐容疑72歳男逮捕

東京新聞 2018年5月5日



島根県浜田市で昨年七月、当時十九歳だった無職の女性(20)が行方不明になり、県警は四日、女性を連れ去り自宅に泊めていたとして、未成年者誘拐容疑で同市原町、無職佐々本薫容疑者(72)を逮捕した。女性は三日夕、佐々本容疑者の自宅で約九カ月ぶりに無事保護された。県警は路上で女性に声を掛けて誘ったとみて、詳しい経緯を調べている。県警によると、佐々本容疑者は「誘拐したつもりはない」と容疑を否認している。

逮捕容疑では、昨年七月中旬ごろ、浜田市内で女性が未成年であることを知りながら誘拐し、自宅アパートで寝泊まりさせていたとされる。

女性は昨年七月十四日から家に帰らず、同二十二日に近所の祭り会場で目撃されたのを最後に行方が分からなくなっていた。女性には軽度の知的障害があり、家族が九月一日に行方不明者届を出し、県警が同十四日から公開捜査していた。

今日午後六時十五分ごろ、「近くで女性の泣き声が聞こえる」と住民から通報があり、警察官が駆け付けると、アパート一階にある佐々本容疑者宅の居間で女性が泣いていた。佐々本容疑者も自宅にいた。今年四月に近くの住民から「騒音がする」との通報が浜田署に二回あり、署員が佐々本容疑者の自宅を訪れたが「知らない」と入室を拒否され、発見できなかった。

### CMで再び脚光 高校生スイマーWほか、東京パラ五輪に向け切磋琢磨

愛媛新聞 2018年5月5日  
障害者水泳で世界を目指す中道穂香さん(左)と岡部歩乃佳さんが出演するCMの一場面(パナソニック提供)

(左)CMの反響に「たくさんの応援が力になる」と話す中道穂香さん=4月26日午後、愛南町御荘平城、(右)パラリンピック出場



たまたま同じ名前。同じ歳。

に向け「代表入りを最後まで狙って頑張りたい」と話す岡部歩乃佳さん＝4月19日午後、新居浜市東雲町2丁目

障害者水泳で世界を目指す2人の高校生スイマーが再び脚光を浴びている。新居浜東高3年の岡部歩乃佳さん(17)と南宇和高3年の中道穂香さん(17)。2人が出演し、4月から全国放送で流れたテレビCMが話題となった。2020年の東京パラリンピックを前に「Wほのか」として注目され、刺激し合い、夢舞台に照準を合わせる。



岡部さんは右前腕、中道さんは右脚が、生まれつきない。自身の体を生かす泳ぎのための鍛え方は違うが、障害のクラスは同じ。日本身体障がい者水泳連盟の育成選手S指定、A指定にそれぞれ選ばれ、切磋琢磨(せつさたくま)する。

CMは電機大手のパナソニックが東京五輪、パラリンピックを目指すアスリートを都道府県別に紹介する企画の一つ。企画担当者は「愛媛でパラアスリートを紹介しようと考えたとき、2人しかいないと思った」と話し、相手の存在を力に変えて練習に励む姿勢に感銘を受けたという。

「絶対に負けたくない」。競技人口の少ないパラスポーツは「自分との戦いであることが多い」と中道さん。だからこそ、肩を並べて競い合える他者がいるのは貴重だ。岡部さんは中道さんのほかにも意識する選手がいるというものの「(中道さんとは)お互いの練習量も知っている。注目されるからこそ、抜かれるわけにはいかない」と気を緩めることはない。

強くなるための悔しい思いも、ぶつかる壁もそれぞれにある。同じ目標を見ている2人。運命的な「もう一人」の存在が、特別な原動力だ。

## 福島・浪江町のNPOが障害者が働くカフェをオープン 小泉浩樹



朝日新聞 2018年5月5日  
店で働く予定の職員らがメモを取りながら開店の準備を進めていた＝3日、福島県二本松市油井

障害者の就労支援をするNPO「コーヒータイム」(浪江町)が二本松市で、障害者が働く喫茶店「OBR I (オブリ)」を開く。

場所は浪江町からの避難者が多く住んでいる復興公営住宅の近く。「交流の場になってほしい」。理事長の橋本由利子さん(64)は言う。

3日、橋本さんらは近々予定している開店に向けて、「あだたら井」の試作をしていた。福島市の就労支援施設で作った地域ブランド「笹やか地鶏」の半熟卵と、浪江町請戸地区出身の業者が干したコウナゴをお湯で戻して載せたどんぶりに、しょうゆを混ぜたラー油を絡めて味付けする。米は浪江町産を使っている。



「OBR I」はポルトガル語の「オブリガード(ありがとう)」と、コーヒータイムがあった浪江町大堀地区にちなんだ。平屋で木を使った温かみある店内には、福島市出身の絵本作家、小原風子さんが安達太良山と請戸の海をモチーフに描いた幻想的な風景画が飾られている。営業時間は午前10時～午後4時で、定休日は月、火曜日だ。

## 「たぬき先生」遺族 富士見に文庫を

信濃毎日新聞 2018年5月5日

型にはめない自由な子育てを提唱した小児科医の毛利子来（たねき）さん（昨年10月に87歳で死去）の著書を遺族が諏訪郡富士見町に寄贈し、「記念文庫」を作る計画が動きだした。信濃毎日新聞教育面のコラム「コンパス」の筆者を務める内田良子さん（75）＝東京＝が提案者。毛利さんが仕事場とした別荘が同町落合にあると聞き、構想した。遺族は応じる意向で、近く町側に協力を打診する。4日は遺族や内田さんらが別荘に集まり、計画実現に向けて話し合った。

毛利子来さんの別荘に集まった内田さん（左）と、毛利さんの妻敬子さん（中央）、次女マスミさん＝4日、富士見町



育児や教育に悩む母親らに「たぬき先生」の愛称で親しまれた毛利さん。東京・原宿の小児科医院で長年診察を続ける一方、夏休みなどには家族を連れて同町の別荘に通い、執筆に励んだ。地域保育や障害児教育など親子を巡る幅広い課題で発信を続け、著書は「赤ちゃんのいる暮らし」など多数。雑誌「ちいさい・おおきい・よわい・つよい」の編集代表も務めた。

妻敬子さん（84）と次女マスミさん（55）＝ともに東京＝によると、別荘にはテレビや電話を置かず、ほとんどの著書を執筆したという。敬子さんは「自然に囲まれた静かな環境を気に入っていたようだった」と振り返る。

毛利さんが死去した後の1月、関係者が東京に集まった会合で内田さんと敬子さんが知り合った。富士見町出身の内田さんは、毛利さんが自分の故郷との縁が深いことを知り、その場で記念文庫を提案した。遺族から都内の自宅にある著書を引き取り、出版社からも協力を得て100冊近くを集める予定だ。

この日は富士見での思い出を語った。内田さんは「母親らが安心して子育てをするための環境が整う」と文庫の実現に期待。敬子さんも「ここは夫にとって忘れられない場所。記念文庫という形でご縁が続くといい」と話した。

## 自閉症、発達障害に理解深めて 岡山市立中央図書館で企画展

山陽新聞 2018年5月5日

### 自閉症や発達障害に関する書籍が並ぶコーナー

自閉症や発達障害に対する理解を深めてもらう企画展「知ってつながる、青でつながる。—自閉症・発達障害のこと知っていますか—」が岡山市立中央図書館（北区二日市町）で開かれている。30日まで。

1階にコーナーを特設し、同館が所蔵する関連の書籍約80冊を展示。「自分のやり方やペースを優先する」といった自閉症の特徴や育児のこつなどをまとめた本や、30代でア



スペルガー症候群と診断された著者が自身の悩みや療法について語ったエッセーなどを並べている。NPO法人県自閉症協会の協力で、啓発用のリーフレットも置いている。

同館を訪れた女性（65）は「社会全体で自閉症や発達障害への関心が高まっていると感じる。展示をきっかけに、より理解が進むといいですね」と話していた。

午前10時～午後6時（木曜は午前11時～午後7時）。月曜休館。

## 里親との懸け橋に 「預かる」から「託す」へ

東京新聞 2018年5月5日

死別や虐待などさまざまな事情で親と暮らせず、社会が代わって育てる必要のある子どもが、この国に約三万六千人いる。その大半が施設で集団生活する。長野県上田市の小さな乳児院は、子どもの幸せを最優先に考え、積極的に里親など家庭に養育を託す方針へと転換した。きょう五日は「こどもの日」。(安藤美由紀)

「0～2歳の赤ちゃんを短期間、ご自宅で預かってくださる方を募集します」。昨年六月から、上田市の公共施設や飲食店に張り出されている里親募集のポスターだ。つぶらな瞳の赤ちゃんの写真が目を引き。



作成したのは市内の「うえだみなみ乳児院」。里親は子どもを長期間預かるイメージが強いが、「親が入院している間」などの短期ニーズも多い。ポスターで「短期間」と強調したことが功を奏したのか、今年三月までに六十件問い合わせがあり、十六世帯が里親登録に向け手続きを進めている。

同乳児院は、市営だったのを社会福祉法人「敬老園」が引き継ぎ、二〇一一年三月に発足した。法人が運営する老人ホームなどが入る六階建てのビル二階、約九十平方メートルのスペースに、十カ月～二歳九カ月の六人の子どもが暮らす。家庭的な雰囲気を心掛け、保育士は子どもと一緒に給食を食べ、風呂に入る。

それでも特定の大人と二十四時間一緒にいられる家庭とは違う。日中は七人の保育士がほぼマンツーマンで世話できる時間帯もあるが、勤務時間の八時間で交代する。深夜から朝までは見守る保育士は一人だ。子どもの育ちには、特定の大人との安定した関係に基づく「愛着形成」が重要とされ、丸山充院長は「努力はしているが、施設では限界がある」と打ち明ける。

厚生労働省の一六年度末データでは、親と暮らせない子どもの八割以上が施設に入り、里親などと暮らす子どもは18.3%にとどまる。欧米では里親委託が主流。先進国で日本のような施設偏重は少なく、一六年五月、施設から家庭養育へ転換する方針を明記した改正児童福祉法が成立した。

抱っこしたり、あやしたり、母親のように子どもたちと接する保育士ら＝長野県上田市のうえだみなみ乳児院で



その後まもなく開かれた会合で、丸山院長は、児童精神科医の上鹿渡（かみかど）和宏長野大教授の講演を聞いた。英国では、施設が家庭養育の支援へかじを切ったという。「これだ」。教授から助言を受けながら、乳児院の事業を根本から見直した。

一七年度から、里親のなり手探しのほか、里親家庭の支援、特別養子縁組の仲介もスタート。予期せぬ妊娠をした女性の相談窓口も近く開設し、虐待など不幸な親子関係の予防にも取り組む予定だ。丸山院長は「うちの子どもがゼロになることも想定している。子どもの最善の利益のため、預かるだけの施設からの転換を目指している」と語る。

課題もある。現制度では、子どもの在籍人数が減ると国から支給される運営費が減り、経営に響く。暫定措置として里親支援に積極的な場合の上乗せ支給はあるが、続くかは不透明だ。上鹿渡教授は「特に乳児は施設ではなく家庭で育てるのが世界の流れ。法改正を

下支えする制度へ早急に見直しが必要」と指摘する。

### 「スマホ中毒」に懸念＝IT企業に対応迫る－米 時事通信 2018年5月5日

【シリコンバレー時事】米国でスマートフォンやタブレット型端末などの過剰な利用が子どもの精神衛生や発育に悪影響を及ぼすとの懸念が広がっている。インターネット交流サイト（SNS）やゲームに対する若年層の「中毒症状」は、家庭や教育現場の深刻な課題。IT企業には社会的責任として対策を求める声が上がっている。

「多くのスマホはスロットマシンのように設計されている」。IT大手アップルの本社があるカリフォルニア州クパチーノの中学で4月下旬、公立学校運営組織が開いた講演会。電子機器依存の防止に取り組む団体センター・フォー・ヒューメイン・テクノロジーのマックス・ストッセルさんは、熱心に耳を傾ける保護者らにスマホ中毒への対処を訴えた。



講演で「スマホ中毒」への対処を訴えるマックス・ストッセルさん＝4月26日、米カリフォルニア州クパチーノ

SNSは利用が長時間に及ぶほど広告媒体としての価値が高まるため、利用者がスマホを頻繁に閲覧するよう通知を送り続ける。ストッセルさんは「広告ビジネスを展開する企業はサービス利用者を売り物とみている」と警告する。

一方、アップル株主のカリフォルニア州教職員退職年金基金は1月、子どものスマホ使用について保護者による管理機能強化を求める書簡を投資ファンドと連名でアップルに送った。スマホ中毒対策が企業価値の向上につながるとの提案だ。

書簡は、電子機器に依存する若年層は睡眠不足に陥りやすく、うつや自殺のリスクが高いという研究を引用。iPhone（アイフォーン）を世に送り出したアップルに「年端もいかない顧客に対する責務を負うことで再び先駆者の役割を果たせる」と迫った。

### 大分きゅんバス リニューアル おしゃれで居心地良い 「ななつ星」水戸岡さんデザイン 車椅子に対応、床つり革に木 /大分 毎日新聞 2018年5月5日

ワンコイン（大人100円）で乗れる大分市の中心市街地循環バス「大分きゅんバス」が、バリアフリー車両となり、好評だ。

3月末に導入した新車両3台は、外装・内装とも、JR九州の豪華寝台列車「ななつ星 in九州」などをデザインした水戸岡鋭治さんがリニューアルのデザインを担当した。

今秋の国民文化祭や全国障害者芸術・文化祭、来年のラグビーワールドカップを見据えて、車いすなどへ対応するリフトやスロープを設置。「おしゃれで居心地の良い時間と空間の演出」を目指してバスの側面と座席のシートにカラフルなモザイク柄をあしらった。車内の床やつり革には木を使って「懐かしさ」を表現。3台とも少しずつデザインが異なる。

大分きゅんバスは2015年6月から試験運行し、昨年10月からは本格運行を開始。平日は18便（午前8時～午後5時45分）、休日は16便（午前9時45分～午後5時45分）走っている。16年度は約6万1000人が利用した。【尾形有菜】

### プロボノ 高齢者支援に活用 住民団体との協働、府が推進 社会参加で元気な人増やす /大阪 毎日新聞 2018年5月5日

お年寄りの介護予防や生活支援に当たる住民団体やNPOと、仕事上の専門知識や技術を生かしたボランティア活動「プロボノ」との協働を進めようと、府が力を入れている。会計やITなどに詳しい人が運営や管理に役立つ講習や助言をし、超高齢社会の到来に備

えて団体の活動充実に貢献してもらおう「互助」の取り組みだ。【念佛明奈】

2017年度から始めた「大阪ええまちプロジェクト」で、事業は東京と関西を中心にプロボノを推進するNPO法人「サービスグラント」(東京)に委託。支援希望の団体が申請すると、登録済みの「プロボノワーカー」から要望に応じて人選される。初年度は17団体で78人が活動し、化学メーカーの研究職や電機メーカーの新製品開発、商社の経営企画など職種や経歴はさまざまだ。

地域で活動している市民団体にさまざまな助言をするプロボノのメンバー(右)＝大阪府吹田市で、加古信志撮影



高齢者の生活支援に取り組む自治会有志の団体では、電力会社の広報担当で育児中の女性らが運営マニュアルを作成。高齢者の移動サービスを提供するNPO法人には、市場調査や新規事業開発の企業人がインターネットの予約フォームづくりを手伝った。

府が積極的な背景には介護を巡る事情がある。厚生労働省によると、府内の要介護認定率は14年度で22・4%(全国平均17・9%)、高齢者1人あたりの年間介護費は31万9000円(同27万4000円)で、いずれも全国一。単身世帯率の高さやヘルパー派遣業者が多く利用しやすいこともあり、軽度な要支援1や2の認定率が高い。社会参加や介護予防体操などの取り組みで元気な人を増やせるとみて、高齢者を支える団体の運営基盤を強化しようと、プロボノの活用に着目した。

府介護支援課は「オール大阪で支え合う仕組みを構築したい」、サービスグラントは「行政や福祉関係者に加え、企業に勤める多様な人の力を生かし、地域づくりを進めるモデルを発信していきたい」としている。

吹田市の西山田地区集会所(昨年12月当時)にある地域交流拠点「西山田ふらっとサロン」では、プロボノワーカーの遠藤悦代さん(45)らが、パソコンのエクセルシートを使って注文票や日報を管理する方法を伝えた。

遠藤さんは大阪市内の会計事務所で顧客の会計チェックや経理の改善を担当。昨年12月、システムエンジニアの女性ら5人で訪ねた。遠藤さんは「仕事のスキルが他でも役立つと思っていなかったのが新鮮」と話した。

サロンは2005年開設。地元のお年寄りが集う場で、介護予防体操の会も定期的に開く。住民ら約75人が当番制に関わるが、手書きの会計管理の改善やオリジナルの名刺作成をしたくても、専門知識や技術がなく手を付けられなかった。

会計担当の田中みよ子さん(71)は「パソコンで管理できたら楽だろうとは思っていた」。代表の尾浦芙久子(ふくこ)さん(71)は「専門的な知恵やスキルをいただけ、プロボノの方も地域ボランティアと触れ合う機会になる」と言う。

#### ■ことば プロボノ

「公共の善のために」を意味するラテン語「Pro Bono Publico」が語源。仕事で培った専門的な技術や経験を生かした社会貢献を指し、米国で先行した。当初は弁護士ら法律に関わる専門家による無料の弁護活動などに限られたが、東日本大震災以降は被災地の企業やNPOに技術や情報、取引先を提供する支援なども目立つようになった。

着物姿「夢かなった」車いす女性ら笑顔 滋賀で障害者向け体験会

産経新聞 2018年5月5日

障害のある人に着物の着付けを体験してもらおうと、草津市の市民ボランティア団体が4日、同市大路の「草津川跡地公園 de 愛ひろば」のにぎわい活動棟で、着付けの体験会を開いた。中には初めて着物を着た人もいたといい、記念撮影をするなど楽しいひとときを過ごした。

ケアマネジャーや着付け師でつくるボランティア団体「spring」が、障害者から「着物を着てみたい」という声を受けて企画。体験会を通じて、障害者の社会参加の促進とともに障害者への理解を深めてもらう目的も兼ねており、市コミュニティ事業団の助成金を活用して開いた。

体験会には、足が不自由な人や精神障害者ら女性12人が参加。ボランティアに手伝ってもらいながら着物に着替えた。中には車いすを利用する障害者用の着物も用意。上半身は袖を通して羽織り、下半身は足からはくという上下2分割に加工した着物で、障害者は車いすに座ったまま20分ほどで着替えることができた。

身体障害者の野洲市小篠原の赤坂真梨子さん(22)は「着物には縁がなくあきらめていたが、一つ夢がかなってうれしい」と目を細めていた。

## 西淀川区 子ども支援ワーカーの設置



大阪日日新聞 2018年5月5日  
保健福祉課は「関係部署と連携しながら適切な支援につなげたい」と展望する

貧困対策へ資源フルに

子どもの貧困対策の一環として、若年出産世帯の支援に乗り出す。専門職員「子ども支援ワーカー」を新たに採用し、地域の主任児童委員らと連携。困窮度が高いとみられる主に10代の保護者や妊婦らを、就労や学び直しなどの適切なサポートにつなげる。おおむね人件費として、317万円

を計上した。

市が2016年に実施した「子どもの生活に関する実態調査」によると、実質手取り収入を基に困窮度が最も高いのは、母親が10代で初めて親になった世帯。西淀川区では55・6%に達し、市平均を20ポイント余り上回った。

非正規など就労が不安定、高校卒業未満の学歴であることなど若年出産世帯が相対的に困窮度が高いと考え、ワーカーを通じて地域の世話役と生活上の困りごとについて情報交換。家庭訪問などを通して寄り添い、経済的自立に向けたきっかけづくりにつなげる。

保健福祉課の担当者は「役所が持つ資源をフル活用し、可能な支援をしていきたい」と展望している。

月刊情報誌「太陽の子」、隔月本人新聞「青空新聞」、社内誌「つなぐちゃんベクトル」、ネット情報「たまにブログ」も



大阪市天王寺区生玉前町5-33 社会福祉法人大阪手をつなぐ育成会 社会政策研究所発行